

チュルク語の人称標示について —— 料理レシピを題材にして ——

大 崎 紀 子

は じ め に

世界には様々な食材を用いた様々な料理があり、その料理法を文字化した料理レシピには、言語ごとに料理レシピ特有の文法がある。例えば、日本語では「肉を一口大に切り、油を引いたフライパンで焼く。」のように、文末の動詞は現在未来終止形を用いるのが一般的である。人称という観点から見ると、日本語の動詞は、人称によって動詞の形態が変化するドイツ語やフランス語など欧米の言語とは異なり、人称というカテゴリーをもたないので、本来的に無人称的である。“*Cut meat into bite-size pieces and fry in a pan.*”のような英語のレシピでは、動詞を命令形と考えるか、不定形と考えるかは、母語話者でも理解が分かれるようだが、ドイツ語レシピの“*Fleisch in grosse Würfel scheiden und in heissem Olivenöl in einer Pfanne anrösten.*”では不定形動詞が用いられている。ロシア語でも、料理レシピには不定形非人称文が用いられるのが普通である。

チュルク語は、中央アジアを中心に、西は黒海沿岸、ヴォルガ川流域、東は中国新疆地方、東シベリアにかけて、ユーラシア大陸を横切る広大な地域に分布する言語である。最西のトルコ語から最東のサハ語まで、30余りの方言が認められているが、それぞれの言語（方言）で書かれた料理レシピを見ると、特に動詞の人称という点において、実に様々なパターンが用いられていることが分かる。本稿では、チュルク語の料理レシピに用いられる動詞の人称のバリエーションを分類、整理し、その背景を考えてみたい。

まずは第1節で検討対象言語の概要を簡単に述べたうえで、第2節において本論の検討を行う。

I チュルク語と本稿で扱う言語の概要

チュルク語（チュルク諸語）の方言として認められる言語のうち、本稿で扱うのは、次の7言語である。それぞれの主な分布地域と大まかな話者数を挙げておく。

表1に示した分布地域は、ごく大まかなものであり、各言語はそれぞれの周辺国にも相当数の話者がいるほか、カザフ・キルギス・ウイグル・ウズベク・タタール族は中国の少数民族

表 1

言語名	主に話されている地域	話者数
サハ語	ロシア連邦サハ共和国（東シベリア）	約 45 万人
カザフ語	カザフスタン共和国（中央アジア）	約 1,600 万人
キルギス語	キルギス共和国（中央アジア）	約 500 万人
ウイグル語	中国新疆ウイグル自治区（中央アジア）	約 840 万人
ウズベク語	ウズベキスタン共和国（中央アジア）	約 2,000 万人
タタール語	ロシア連邦タタールスタン共和国（東欧）	約 800 万人
トルコ語	トルコ共和国（西アジア）	約 8,300 万人

族に指定され、中国内にも話者がいる。中国内のチュルク語のうちウイグル・カザフ・キルギス語では変形アラビア文字による正書法をもち、漢語との二言語使用の環境にあるのに対し、ロシア連邦内で使用されるサハ語、タタール語、そして旧ソビエト連邦に属していた国々で使用される言語（カザフ語、キルギス語、ウズベク語）では、ロシア語との二言語使用が広く行きわたる中で、キリル文字による正書法が行われている。但し、ウズベク語は、独立後の 1992 年以降ラテン文字表記への変換が進められている。しかし現在もキリル文字が盛んに使用されており、表 1 の言語のうち、ラテン文字による正書法が完全に定着しているのは、1928 年にアラビア文字表記からの変換を行ったトルコ語のみである。

II チュルク語料理レシピにおける人称パターン

チュルク語は、動詞において、主語の人称を義務的に標示しなければならない言語である。人称には一・二・三人称があり、それぞれ単複の区別がある。料理レシピにおいては、以下の 5 つの人称及び構文パターンが認められる：

1. 一人称複数現在未来形構文
2. 二人称単数/複数現在未来形構文
3. 二人称複数命令形構文
4. 三人称受動構文
5. 三人称非人称構文

以下で、それぞれのパターンの例を挙げ、観察する。

I 一人称複数現在未来形構文

現在未来形の動詞に一人称複数の人称接辞がつく形式が、キルギス語、カザフ語、ウズベク語、ウイグル語の料理レシピにしばしば用いられる。

(1) キルギス語

ǰumurtka-lar-di suu-ga bišir-ip **al-a-biz**... Dayar bol-gon
 卵-複数-対格 水-与格 煮る-副動詞 取る-現未-1 複数 準備 なる-形動詞

daam-din üst-ü-nö pomidor-don gül jasa-p, petruška,

料理-属格 上-3所有-与格 トマト-奪格 花 作る-副動詞 パセリ

ykrop čöp-tör-ü menen kozdo-p **koy-o-buz.**

ディル 草-複数-3所有 と共に 増やす-副動詞 置く-現未-1複数

「私たちは卵を水で茹でます。(中略) 私たちは出来上がった料理の上に
トマトで花を形作り、パセリ、ディルのハーブで飾っておきます。」

[レシピテキスト 出典(以下、出典と略記) 1]

(2) カザフ語

Kökönis-ter men jümirtqa-ni **qayna-t-a-miz.** Qizilša-dan

野菜-複数 と 卵-対格 沸く-使役-現未-1複数 ビート-奪格

basqa-si-n kiškene tort-bürišta-p **tura-y-miz.**

他の-3所有-対格 小さい 4-角を作る-副動詞 切る-現未-1複数

「私たちは野菜と卵を茹でます。私たちはビート以外のものを
小さい四角に切ります。」[出典 2]

(3) ウズベク語

Qayna-t-ib sovut-il-gan 0.5 stakan suv-ga jelatin-ni

沸く-使役-副動詞 冷やす-受動-形動詞 0.5 カップ 水-与格 ゼラチン-対格

sol-ib, 1 soat-ga **qol-dir-a-miz.** Pechene-ni

据える-副動詞 1時間-与格 とどまる-使役-現未-1複数 ビスケット-対格

maydala-b **ol-a-miz.**

小さくする-副動詞 取る-現未-1複数

「私たちは沸騰させて冷ました半カップの水にゼラチンを入れ、1時間おきます。

私たちはビスケットを砕いておきます。」[出典 3]

(4) ウイグル語

gürüç-ni yu-yup, čila-p **qoy-i-miz.** säwzi-ni

米-対格 洗う-副動詞 浸す-副動詞 置く-現未-1複数 ニンジン-対格

qälämče **qil-i-miz.**

さいの目に する-現未-1複数

「私たちは米を洗って、浸しておきます。私たちはニンジンをさいの目に切ります。」[出典 4]

このような一人称複数現在未来形による表現は、料理のプロセスを段階ごとに示しながら説明する場面で使われることが多い。つまり、レシピの書き手と読み手の両方を含む「私たち」が、動作主体として主語に立ち、ともに料理をするという姿勢が示される表現である。

次の例は、東シベリアのサハ語で書かれた料理本からのものである。一般のレシピは後述第4節の三人称単数受動構文で書かれているのに対して、料理の手順を一つ一つ写真で示しながら説明する箇所でのみ、以下のような一人称複数現在未来形構文が用いられており、

「料理のプロセスを段階ごとに示しながら説明する場面で使われる」という傾向が顕著である。

(5) サハ語

Et-i orto-tu-ttan seren-en kirbaa-n
肉-対格 真中-3 単数所有-奪格 注意する-副動詞 切断する-副動詞
sakalñ-bit... Forma **bier-e-bit.**
始める(現未)-1 複数 形 与える-現未-1 複数

「私たちは肉を真中から注意して切り始めます。(中略) 私たちは形を作ります」[出典 5]

トルコ語でも、頻度は多くないが、次の(6)のように、一人称複数継続現在形を用いて書かれたレシピが見られ、チュルク語全般に料理レシピで用いられる形式であることが分かる。

(6) トルコ語

Baklava yufka-sı-nı 2'ye böl-üyor-uz. Tereyağı-nı
バクラヴァ 生地-3 所有-対格 2-与格 分ける-継現-1 複数 バター-対格
erit-iyor-uz. Fırın kab-ı-na yufka-nın yarısı-nı
溶かす-継現-1 複数 天火 皿-3 所有-与格 生地-属格 半分-3 所有-対格
her kat-ı-na tereyağ sür-erek üst üste
それぞれ 層-3 所有-与格 バター 広げる-副動詞 上に
diz-iyor-uz.
並べる-継現-1 複数

「私たちはバクラヴァ生地を二つに分けます。私たちはバターを溶かします。

オープン皿に生地の半分を、それぞれの層にバターを広げ、

私たちは重ねて並べます。」[出典 6]

トルコ語では、次の(7)のように、一人称複数希求形がレシピのテキストに用いられることもあるが、頻度は低い。

(7) トルコ語

Kıy-ıl-mış lahana-yı, yeşil soğan-ı, rende-ye-n-miş
刻む-受動-形動詞 キャベツ-対格 緑 ネギ-対格 すりおろす-受動-形動詞
patetes-i, un-u genişçe bir tencere-ye
ジャガイモ-対格 小麦粉-対格 容量の大きい 1 鍋-与格
koy-a-lim. Bulyon-u küçük bir tabak-ta ez-ip
置く-希求-1 複数 ブイヨン-対格 小さい 1 皿-位格 砕く-副動詞
tencere-ye **kat-a-lim.**
鍋-与格 加える-希求-1 複数

「私たちは刻んだキャベツ、青ネギ、すりおろしたジャガイモ、小麦粉を

大きな調理器に入れましょう。ブイヨンを小さい皿で砕いて調理器に加えましょう」[出典7]

2 二人称単数/複数現在未来形構文

キルギス語やカザフ語、ウイグル語では、動詞の現在未来形に二人称単数（丁寧）の人称接辞が付いた形式が用いられることがある。

(8) キルギス語

Adegende taruu, jügörü, arpa, buulay un-u-n
 最初に キビ トウモロコシ 大麦 小麦 穀粉-3 所有-対格
 suu-ga čila-p ačitki-dan kuy-up **ačī-t-a-sız.**
 水-与格 浸す-副動詞 イースト-奪格 注ぐ-副動詞 発酵する-使役-現未-2 単数
 Andan kiyin kazandagi kayna-gan suu-ga ači-gan
 それ (奪格) 後 鍋にある 沸く-形動詞 水-与格 発酵する-形動詞
 šak-ti sal-ip, bir kalip-ta jag-il-gan ot-to
 穀物-対格 据える-副動詞 1 形-位格 火をつける-受動-形動詞 火-位格
 1 caat-tan ašik **kayna-t-a-sız.**
 1 時間-奪格 以上 沸く-使役-現未-2 単数

「あなたは最初に、キビ、トウモロコシ、大麦、小麦の穀粉を水に浸し、イーストを加えて発酵させます。その後で、鍋で沸騰した湯に発酵した穀物を入れ、一定に保った火にかけて1時間以上煮ます。」[出典8]

(9) カザフ語

Türli-tüsti qırıqqabat-ti bir-birinen ajira-t-ip, kiškene
 多色の キャベツ-対格 ひとつ一つ 離れる-使役-副動詞 小さい
 bölük-ter-ge **böl-e-sız.** Kazan-ğa su kúy-ip,
 部分-複数-与格 分ける-現未-2 単数 鍋-与格 水 注ぐ-副動詞
 Türli-tüsti qırıqqabat-ti 10 minut-tay qayna-t-ip
 多色の キャベツ-対格 10 分-くらい 沸く-使役-副動詞
al-a-sız.
 とる-現未-2 単数

「あなたは花キャベツを一枚一枚はがして、小さい部分に分けます。鍋に水を注ぎ、花キャベツを10分程度茹でます。」[出典8]

(10) ウイグル語

ɣolpiyaz bilän zänjiwil-ni čana-p az su quy-up,
 青ネギ と共に 生姜-対格 切る-副動詞 少ない 水 注ぐ-副動詞
 siq-ip širni-si-ni **čiqir-wal-i-siz.** širaq uymi-si-ni
 しぼる-副動詞 汁-3 所有-対格 出す-取る-現未-2 単数 すね 塊-3 所有-対格

uššaq toʻra-y-siz.

細かい 切る-現未-2 単数

「あなたは青ネギと生姜を切つて水少々を加え、

しばって汁を出します。すね肉の塊を細かく切ります。」[出典 10]

キルギス語やカザフ語、ウイグル語には二人称単数接辞に普通形と丁寧（尊敬）形があるが、ウズベク語では、二人称単数接辞が一種類しかなく、二人称複数形が丁寧（尊敬）形として用いられる。そこで、次のウズベク語の例は、上のキルギス語やカザフ語、ウイグル語の例と同等の構文と考えてよい。

(11) ウズベク語

Tayyor boʻl-gan suvli qiyma-ni yuv-ib

準備 なる-形動詞 水の多い ひき肉-対格 洗う-副動詞

tozala-n-gan koʻy ičag-i-ga voronka yordam-i-da

きれいにする-受動-形動詞 羊 腸-3 所有-与格 漏斗 助け-3 所有-位格

quy-ib, ikki uč-i-ni ip bilan bogʻla-y-siz va 40

注ぐ-副動詞 2 先-3 所有-対格 糸 と共に 縛る-現未-2 複数 と 40

daqqa past-roq olov-da miltilla-t-ib qayna-t-a-siz.

分 低い-比較級 火-位格 明滅する-使役-副動詞 沸く-使役-現未-2 複数

「あなた方は用意のできた水気の多いひき肉を、洗ってきれいにされた羊の腸に

漏斗を使って注ぎ、両端を糸で縛ります、そして40分弱火で

チラチラさせて茹でます」[出典 11]

この形式は、次節で見る命令形よりも丁寧な依頼を表すことから、レシピテキストでは命令形よりも広く用いられる表現である。

3 二人称単数/複数命令形構文

まれに、二人称単数命令形がレシピテキストに用いられる場合がある。次はカザフ語の例で、普通形と丁寧形の二種類ある二人称単数接辞のうち、丁寧形が用いられている。

(12) カザフ語

Asqabaq-ti arš-ıp, ülken emes bölük-ter-ge tura-ñız.

カボチャ-対格 洗う-副動詞 大きい ない 部分-複数-与格 切る-命令 (2 単数)

Taba-ga nemese qazanšiq tüb-i-ne tura-l-ğan

フライパン-与格 または 鍋の 底-3 所有-与格 切る-受動-形動詞

asqabaq-tar-din ast-i-n tömen qara-t-ıp

カボチャ-複数-属格 下-3 所有-対格 底部 見る-使役-副動詞

tüz-ñız.

並べる-命令 (2 単数)

「あなたはカボチャを洗って、大きくない部分に切ってください。

フライパンか鍋の底に切られたカボチャの下を底に向けて並べてください。」[出典 12]

トルコ語やウズベク語のレシピでも、丁寧（尊敬）形として二人称複数命令形が用いられることがある。

(13) トルコ語

Köfte-ler-i ister tava-da kızar-t-ın ister
肉団子-複数-対格 または フライパン-位格 赤くなる-使役-命令 (2 複数) または
su-da haşla-yın. Üzüm-ler-i su-da bekle-t-ip
水-位格 茹でる-命令 (2 複数) ブドウ-複数-対格 水-位格 待つ-使役-副動詞
şiş-me-si-ni sağla-yın.
膨む-名詞化-3 所有-対格 確保する-命令 (2 複数)

「あなた方は肉団子をフライパンで焼くか、または湯で茹でてください。

干しブドウを水に浸して、膨らますようにしてください。」[出典 13]

(14) ウズベク語

Sopol ko'za-ga avval go'sht va qovurg'a-ni, so'ngra
陶器 壺-与格 先に 肉 と あばら肉-対格 後で
piyoz-dan boshqa sabzavot-lar-ni joyla-sh-tir-ing... Eng
タマネギ-奪格 他の 野菜-複数-対格 置く-相互-使役-命令 (2 複数) 最も
oxir-i-da ko'za-ni to'l-dir-ib suv quy-ing.
終わり-3 所有-位格 壺-対格 満る-使役-副動詞 水 注ぐ-命令 (2 複数)

「あなた方は陶製の壺に先に肉とあばら肉を、あとでタマネギ他の野菜を。

入れてください最後に壺を満たして水を注いでください。」[出典 14]

4 三人称受動構文

チュルク語の料理レシピのテキストにおいて、最もよく用いられ、最も一般的な構文と言えるのが、次のキルギス語の例に見るような、三人称現在未来形受動構文である。

(15) キルギス語

Tep-il-gen kök-tör taza juu-l-up, mayda
摘む-受動-形動詞 青菜-複数 きれいに 洗う-受動-副動詞 薄く
tuura-l-a-t. Kazan-dī mayla-p, kizi-gan-dan kiyin
切る-受動-現未-3 鍋-対格 油をひく-副動詞 熱する-形動詞-奪格 後で
tuura-l-gan kök çöp-tör kuur-ul-a-t.
切る-受動-形動詞 青 草-複数 焼く-受動-現未-3

「摘み取られた青菜はきれいに洗われて、細かく切られます。

鍋に (lit.を) 油をひき、熱してから、切られた青菜が焼かれます。」[出典 15]

一般に受動文が用いられる理由には、動作主よりも動作対象に焦点を当てるため、動作主の明確な表示を避けるため、複文において主語の変換を避けるため、などが挙げられるが、チュルク語のレシピテキストで受動構文が最も広く用いられるのは、このうちの二番目の理由に基づくものであろう。

以下に挙げるように、受動構文は東シベリアのサハ語から、中央アジアのウズベク語、ウイグル語、西アジアのトルコ語まで、レシピテキストにおいて広く、そして最も頻繁に用いられる。

(16) サハ語

Ek-ke tuus, tuma **kut-ull-ar.** Timir liis-ke
 肉-与格 塩 スパイス かける-受動-現在 (3単数) 鉄 葉-与格
 fol'ga-ni tenit-en et-i xartiiha-nan sot-on
 ホイル-対格 並べる-副動詞 肉-対格 マスタード-具格 拭く-副動詞
uur-ull-ar uonna duxovka-ka 200 kiraadis itii-ge
 置く-受動-現在 (3単数) と オープン-与格 200 度 熱-与格
 25-30 münüüte **туруор-ull-ar.**
 25-30 分 置く-受動-現在 (3単数)

「肉に塩、スパイスがふりかけられます。天板にホイルを敷き、肉をマスタードで塗り、置かれます、そしてオープンに200度の熱に25-30分置かれます。」[出典5]

(17) ウズベク語

Olov-i tort-il-a-di. Damla-sh muddat-i 25-30 minut.
 火-3所有 引く-受動-現未-3単数 蒸す-名詞化 時間-3所有 25-30分
 Dasturxon-ga tort-ish-da go'sht-i mayda bo'lak-lar-ga
 食卓-与格 引く-名詞化-位格 肉-3所有 小さい 部分-複数-与格
to'g'ra-l-ib, behi-si bilan palov-ning o'rta-si-ga
 切る-受動-副動詞 花梨-3所有 と共に ピラフ-属格 真中-3所有-与格
qo'y-il-a-di.
 置く-受動-現未-3単数

「火が引かれます。蒸らす時間は20-30分です。食卓に出すときには、肉は小さく切られ、花梨とともにピラフの真中に置かれます」[出典16]

(18) ウイグル語

süt yaki su-ga tuxum, azraq tuz sel-ip, anča
 乳 または 水-与格 卵 少し 塩 入れる-副動詞 それほど
 qattiq qil-ma-y-la xemir **yuγur-ul-i-du.** xemir 100
 固い する-否定-副動詞-倚辞 生地 こねる-受動-現未-3 生地 100

gram zuwuli-lar-ya **böl-ün-üp** nepiz
 グラム 生地のちぎり-複数-与格 分ける-受動-副動詞 精巧に

yey-il-i-du.

広げる-受動-現未-3

「乳または水に卵, 少々塩を入れ, それほど固くせず生地がこねられます。

生地は100グラムの千切りに分けられ, きれいに広げられます」[出典17]

(19) トルコ語

Pirinç tereyağı-nda **kavr-ul-ur,** üzer-i-ne et suyu tablet,

米 バター-位格 焼く-受動-現在-Ø(3) 上-3所有-与格 肉汁 錠

1 dilim limon ve su ekle-n-erek kapağ-ı kapalı

1切れ レモン と 水 加える-受動-副動詞 蓋-3所有 覆われた

ol-arak suyu-**nu çek-en-e** dek **pişir-il-ir.**

なる-副動詞 水-3所有-対格 引く-形動詞-与格 まで 煮る-受動-現在-Ø(3)

「米が脂で炒められ, 上に固形スープ, レモン切れと水が加えられ,

ふたをして水がなくなるまで煮られます。」[出典18]

以上のように, レシピテキストにおける受動構文は, チュルク語で広く用いられていることから, 他の言語(例えばロシア語など)の影響を受けた表現とは考えにくい。しかし, レシピテキストや, それに準ずるテキストが古くからチュルク語に存在し, それが現代に引き継がれたとも考えられない。チュルク語の文字文献は7世紀末から9世紀半ばの碑文に記された突厥文字(ルーン文字)文献にまで遡ることができるが, 9世紀~14世紀にかけてのウイグル文字によるウイグル文献, 15世紀のチムール朝以降, 中央アジアからヴォルガ川中流域まで文語として広く用いられたチャガタイ・トルコ語のほか, 13世紀以降のアナトリア・トルコ語, 15世紀以降のオスマン・トルコ語の例などを除き, チュルク語における文字および文語の使用は限られたものであったからである。

しかしながら, (15)~(19)に見たような受動構文は, 話し言葉よりも主に文章語として用いられているという点が注目されなければならない。話し言葉では, 第1節で見た一人称複数現在未来形構文や, 第3節で見たような二人称命令形構文が主に用いられ, 本節に挙げたような三人称受動構文は, 文章語的である。このような構文使用が, 正書法における使用文字が多様にわたるチュルク語内でどのように広まり, 発展したのかは疑問だが, その過程を明らかにすることは難しい。ただ, 一部の言語のレシピテキストでは, 次節で見るとような非人称構文が見られることがあり, その非人称構文が, レシピテキストにおける受動構文使用の広がりを考えるヒントになる可能性がある。

5 三人称非人称構文

まずは次のカザフ語の例を見てもらいたい。

(20) カザフ語

Qûrt-tî dayında-u üşin aşı-γan ayran-dî nemesse
 クルト-対格 用意する-名詞化 ために 発酵する-形動詞 酸乳-対格 または
 üyi-γan sût-tî kazan-γa qûy-îp, ot-qa qoy-a-dî...
 発酵する-形動詞 乳-対格 鍋-与格 注ぐ-副動詞 火-与格 置く-現未-3
 Qûrt qoyulan-gan kez-de qazan-dî ot-tan al-îp,
 クルト 凝固する-形動詞 時-位格 鍋-対格 火-奪格 取る-副動詞
 azdap suît-a-dî.
 少しずつ 冷やす-現未-3

「クルトを作るために発酵したアイランを、または発酵した乳を鍋に注ぎ、火にかけます。(中略) クルトが凝固する時に鍋を火からおろして少しずつ冷やします。」[出典 19]

このカザフ語のレシピテキストでは、述語動詞が三人称現在未来の形をとっているが、明示的な主語が存在しない。前節で見た受動構文の場合も、述語動詞は三人称の形式をとっていたが、受動構文の場合は、動作対象を表す名詞句が文法上の主語として存在していた。しかし(20)の場合は、動詞に接続した三人称接辞に対応する主語が、明示的には存在しない。このような、明示的な指示対象をもつ文法上の主語がない表現は、一般に「非人称表現」(impersonal expression)と呼ばれている。次のキルギス語のテキストも、非人称表現が用いられている。

(21) キルギス語

Čiy boorsok üčün kamir-ga may, kumšekel koş-up,
 葦 ボルソック ために 生地-与格 脂 グラニュー糖 加える-副動詞
 katuu juur-a-t. Kamir ači-gan-da abdan iylye-y-t,
 固い ねる-現未-3 生地 発酵する-形動詞-位格 よく こねる-現未-3
 čakta-p üz-üp al-îp jukar-t-îp jay-a-t.
 計る-副動詞 切る-副動詞 取る-副動詞 薄くなる-使役 広げる-

「チイ・ボルソックのために生地に脂、グラニュー糖を加え、固く練ります。生地が発酵したらよくこね、計って切り取って、薄くのばします。」[出典 20]

(20) のカザフ語や (21) のキルギス語の動詞に付いた三人称接辞に対応する主語は、あえて言えば「人々」「作り手」など不定の主体であり、非人称表現のなかでも「不定人称文」と呼ぶべき構文である。

チュルク語における非人称表現は「動詞価の変動システムが未発達な段階の残存である」と言われている：

This is often possible without passive-marking, especially at older language stages. There are remnants of diathetically less elaborated systems, where actant relations are less explicitly marked and where subject omission may suggest that no specific first actant is meant. [Johanson 1998: 53]

たしかに、(20) や (21) のような非人称構文はトルコ語などでは見られないことから、「過去の残存物」と言うこともできるだろう。しかし、キルギス語では口語でも文語でも広く用いられる表現である [Japarov 2007: 205]。

Johanson 1998 が指摘するように動詞価の変動システムが発達する段階で (20) や (21) のような非人称表現が用いられなくなり、(15)～(19) に挙げたような受動構文が、特定の動作主を表示を避ける方策としてチュルク語一般で採用されるようになったと考えられる。

しかしながら、(20) や (21) に挙げたカザフ語、キルギス語のテキストは、実は、他の料理レシピテキストとは、やや趣が異なる文脈で現れている。すなわち、(20) に挙げたカザフ語のテキストは、「クルト」と呼ばれる乳製保存食の作り方を説明するために B. Baraqbaev (1989) 『乳と乳食品 (Süt jäne süt taramdari)』から引用されたものであり、引用者自身は「クルトを自分で作ったことはない」と述べている。また、(21) のキルギス語のテキストは、「ボルソック」という伝統的な揚げ菓子の作り方を説明するものだが、文書のタイトルは「キルギス人の国民的料理 (kırğızdardın uluttuk aşkanasi)」であり、料理の作り方を説明することよりも、「その料理がこのように作られる料理である」という、料理そのものの説明を目的としたテキストだと見ることができる。

このように考えると、(20) や (21) のカザフ語やキルギス語に見られる非人称表現は、受動構文とは異なる機能をもって用いられていると考えることができる。つまり、どちらも「動作主を表示を避ける」ために用いられるが、受動文は「動作主は具体的に存在するが、統語上表示しない」のに対して、非人称表現は「動作主を特定しないために、統語上表示しない」という違いがあると考えられる。したがって、(20) や (21) の非人称構文は「動詞価の変動システムが未発達な段階の残存」[Johanson 1998: 53] であるとしても、キルギス語やカザフ語では、受動構文とは異なる機能をもって発展している可能性がある。

一方で、タタール語では、次に見るような三人称複数標示による非人称表現がしばしばレシピテキストに見られる。

(22) タタール語

Kayna-p	tor-gan	äzer	may-ga	sarık	it-e,
沸く-副動詞	立つ-副動詞	用意のできた	脂-与格	羊	肉-3所有
başlı sugan,	kişer	sal-ıp,	kız-dır-a-lar	da,	
タマネギ	ニンジン	据える-副動詞	赤くなる-使役-現在-3 複数	また	
toz,	borič	sib-ep,	su	belän	kayna-t-a-lar,
塩	胡椒	撒く-副動詞	水	と共に	沸く-使役-現在-3 複数

döge-ne ike-gä bül-ep sal-a-lar.

米-対格 2-与格 分ける-副動詞 据える--現在-3 複数

「沸騰している用意のできた脂に羊肉、玉ねぎ、ニンジンを入れ、焼きます、そして塩、胡椒をふり、水と共に沸かし、米を2回に分けて入れます。」[出典 21]

(22) のタタール語が (20) や (21) のカザフ語、キルギス語の例と異なるのは、明確な三人称複数接辞が用いられている点である。この点において、ロシア語の不定人称文の影響が強く想起される。すなわち、主語なしで動詞を複数三人称形にして作られるロシア語の不定人称文の影響を受けて用いられるようになった構文の可能性がある。しかし、(22) のタタール語と、(20) や (21) のカザフ語、キルギス語の違いについては、さらに調査をして慎重に考える必要がある。

おわりに

本稿では、チュルク語のレシピテキストを題材に、そこで用いられている構文を、とくに人称という観点から考察した。一人称複数、二人称単数/複数、三人称と様々なバリエーションがあるが、チュルク語で最も一般的に広く用いられているのが三人称標示の受動構文であり、次に広く用いられるのが一人称複数現在（現在未来）形構文であることを述べた。ただ、キルギス語やカザフ語、そしてタタール語で見られる非人称表現については、そもそもチュルク語における「人称」とは何かという基本的な問題と深く関わっており、またチュルク語の受動構文を理解する鍵にもなりうるので、本稿でのレシピテキストの調査を端緒として、今後さらにデータを収集し、検討を重ねたい。

翻字一覧

本稿におけるテキストの表記は、キリル文字表記による正書法をもつ言語については、その正書法に従って、それをローマ字に翻字した。翻字法は次の通りである：

A a=A a, Б б=B b, В в=V v, Г г=G g, Д д=D d, Е е=E e, Ё ё=Y o yo, Ж ж=J j, З з=Z z, И и=I i, Ы ы=Y y, К к=K k, Л л=L l, М м=M m, Н н=N n, О о=O o, П п=P p, Р р=R r, С с=S s, Т т=T t, У у=U u, Ф ф=F f, X x=X x, Ц ц=C c, Ч ч=Č č, Ш ш=Š š, Щ щ=Šč šč, Ъ ъ=", Ы ы=İ i, Ь ь=', Э э=E e, Ю ю=Y u yu, Я я=Y a ya, ґ=γ, Һ һ=κ, Қ қ=Q q, Ө ө=Ö ö, Ө ө=Ä ä, і=і, Ү ү=û

レシピテキスト 出典一覧

1 : Mukasova, Saltanat (Apr.15-21, 2011) *Super! Info*. No. 441.

Super.kg. <<http://464.77.48/article/?article=6487>>

2 : *Akntikitij Dastarxani* (Dec. 30, 2011) <<http://akbantik.wordpress.com/>>

- 3 : *Pazanda* (Dec. 25, 2011)
 <http://pazanda.ucoz.com/news/chizkeyk_cheescake/2010-12-25-281>
- 4 : *8 koça munbiri, uyghur taam medeniyit* (Dec. 5, 2011)
 <<http://8koqa.com/bbs/read.php?tid=2906?>>
- 5 : Tarbaxov, Innokentiy (2009) *Öbüge algistaax aha*. Izdano Izdatel'skim Domom «Kömüöl».
- 6 : *Pratik Yemek Tarifleri* <<http://www.pratikyemekler.com/2012/02/14/muhallebili-katli-baklava/#more-3962>>
- 7 : *turkish-media.com*
 <<http://www.turkish-media.com/yemektarifleri/viewrecipe.php?id=4534&catid=18&ord=id&asc=DESC&entries=132>>
- 8 : Bektaševa, Šaripa (May 30, 2008) *Super! Info*. No. 291.
Super.kg. <<http://46.4.77.48/article/?article=911>>
- 9 : *Akbantiktiñ Dastarxani* (Nov. 18, 2010) <<http://akbantik.wordpress.com/page/3/>>
- 10 : *Taamlar munbiri* (Feb. 26, 2012) <<http://taamlar.com/bbs/read.php?tid-178.html>>
- 11 : *O'zbek milliy taomlari* (Dec. 27, 2010) <<http://oshxona.uz/uz/taomlar/yaxna-taomlar/77-xasip.html>>
- 12 : *Aspazdiq* (Feb. 9, 2009)
 <<http://aspazdik.wordpress.com/2009/02/09/kabak-tatlisi/>>
- 13 : *Ne pişirsem?* <<http://www.nepisirsem.com/resimliyemektarifi.aspx?yemekid=15>>
- 14 : *O'zbek milliy taomlari* (Jan. 23, 2011) <<http://oshxona.uz/uz/taomlar/suyuq-taomlar/92-shorva.html>>
- 15 : Mukasova, Saltanat (May 20-26, 2011) *Super! Info*. No. 446.
Super.kg. <<http://46.4.77.48/article/?article=6747>>
- 16 : *Uzbekskaya kuxnya Komplekt otkritok (16 stuk)* (1986) Izdatel'stvo literituri i iskusstva imeni Gafura Gulyama, Taškent.
- 17 : *šinjan ku'enlun tori* <<http://uyghur.xjkunlun.gov.cn/10060/10180/10003/10005/10001/2009/848065.htm>>
- 18 : *3-2-1 Pişir Tarifleri*
 <<http://www.321pisir.com/yemek-tarifleri/04052010-tarifi.asp>>
- 19 : *Aspazdiq* (May 25, 2011) <<http://aspazdik.wordpress.com/>>
- 20 : *Kirgiz salam* <<http://kyrgyzsalam.net/madaniyat/146-kyrgyzdardyn-uluttuk-ashkanasy.html>>
- 21 : *Minem Yort* <<http://watan.su/tt/ashbulm/382-pilaff>>

参 考 文 献

- Johanson, Lars (1998) The Structure of Turkic. In : Johanson, L. and Csató, É. Á. (eds.), *The Turkic Languages*, 30-66. Routledge. New York.
- Ĵaparov, Abdikul (2007) *Sopostavitel'naya grammatika kirgizskogo i russkogo yazikov*. Učebnik dlya vuzov. Biškek.

(京都大学大学院文学研究科)